

第19回福山教育フォーラム分科会（概要）  
～ 福山市幼保小学びの接続カリキュラム開発校事業 ～



1 福山市幼保小連携教育の推進に向けた今年度の取組（P1～）

- キックオフ会議  
三好教育長挨拶（福山市幼保小連携教育の目的・学びづくりフロンティア校事業）  
アドバイザー紹介（慶應義塾大学 今井むつみ教授・安田女子大学 朝倉淳客員教授）
- 仕組みづくり  
連携校区の編成・連携協議会の目的・連携担当者の選出・各連携協議会の計画状況
- パイロット校の指定  
指定校区（光・緑丘小学校区）・コラボレーター（筒井学校指導員・萩原学校指導員）

2 実践発表（P4～）

【光小学校区】



- 組織作り  
「霞学区・光学区幼保小連携推進協議会」
- 読んだことを表現したい気持ちを活かした  
「くちばしランド」（国語・図工）の実践
- 各園所での水遊びを取り入れた「みずランド」（生活・国語・図工・学活）の実践
- 連携・接続に向けた今後の取組  
関連的・合科的・弾力的の視点で学びをつなぐ

【緑丘小学校区】



- 昨年度までの取組
- スタートカリキュラム
- 幼保小連携協議会の協議内容  
「言葉と数に子どもが触れる場」
- 3つの園で遊んだ経験を活かした「あわあわらんどへようこそ」（生活・国語）の実践
- 連携・接続に向けた今後の取組  
活動を広げ、調べる・比較する場を設定する

3 質疑・応答（P14～）

- 子どもの「やりたい」という思いを活かした際の学級ごとの差は？その連携は？
- 水遊びで子どもにどのような失敗があって、どのように教員がフォローしたのか？
- 書くことについて個人差がある中で、どのように個別の支援をされたのか？

4 講話「一人一人の育ちと学びがつながる幼保小連携」講師：朝倉 淳 客員教授（P18～）

- 幼保小連携・接続の具体  
便りの交流，通信の作成，訪問・参観，行事ほか様々な交流活動，カリキュラムの交流 等
- 連携・接続の背景と目的  
子どもたちが安心して自己を発揮し，自分の持っている知識や経験を活かして成長する
- 新たな意義  
生涯にわたる接続の原理が幼保小連携・接続にあり，SDGs，人類の持続可能性にも関係する
- 推進の際のポイント  
学校や園所の実情に合った取組（規模や実態・取組の歴史 等）を進める

5 協議「子どもの育ちと学びをつなぐ」（P23～）

～ 子どもが興味をもって，言葉を知ろうとしたり，数を見ようとしていたりしている場面 ～  
絵本で絵と言葉を結びつけるとき，自分の名前のひらがなを生活の中で見つけるとき  
シールを貼っているとき，日付や時刻を見るとき，休みの人数を数えるとき，  
栽培している花や実の数，運動会の玉入れ，チーム分けの人数，縄跳び 等

